

## 2015 年まで残り 5 年の課題 一何を優先すべきか

デヴィヤ・ジンダル-スネイプ

ダンディー大学

教育・ソーシャルワーク・コミュニティ教育開発部上級講師



教育はすべての個人の権利であり、貧困の軽減に不可欠なものであるとみなされている。本論は、「万人のための教育 (EFA: Education for All)」という目標実現のための国際教育援助や協力という点で、我々に何ができるかということを中心的なテーマとしている。国際教育援助については、2点について議論する。ひとつは学者や教師などの教育の専門家、教育政策決定者同士の知識交換に基づいたもので、これが目標に向かって前進するためだけではなく、互いから学ぶための方法として非常に重要であると考えからである。二つ目は、EFAに加え、「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」の達成のために英国政府、ボランティア団体、および個人が行った仕事に焦点を当てる。研究者・教育者として、筆者は前者に比重を置く。その後、優先すべきことに関する筆者の提案を簡単に述べる。

### 知識交換の形による国際教育援助

英国においては、他の多くの先進国と同様、問題となるのは学校の建設やすべての国民に教育を提供することではない。問題は生徒たちに学習を継続させ、達成のモチベーションを維持させることにある。(おそらくこれは世界のすべての国が抱える問題であろう)。例として、筆者が最近海外の協力者とともに実施した研究について議論する。この研究では、生徒のやる気、自尊心および成績に影響を与える時期のひとつが、教育のある段階から次の段階に移行する時期、例えば小学校入学、小学校から中学校への進学などであるということを発見した。教育システムや国、あるいは生徒の年齢は様々でも、この様な移行に直面した時、生徒や両親、専門家らが感じる教育学的、社会的、感情的な困難は、非常に類似している(例として Adeyemo, 2007; Akos, 2004; Dockett & Perry, 2001; Eccles, Wigfield, Midgley, Reuman, Mac Iver, & Feldlaufer, 1993; Jindal-Snape & Foggie, 2008 を参照)。言い換えれば、生徒が学習過程で経験する様々な移行は、彼らの日常生活に大きな影響を与えるのである。このことから、世界中の多くの研究者が問題の背景にある理由やその解決のための方法を理解するための試みを行ってきた。例えばスコットランドの Jindal-Snape と Miller は自尊心と回復力の役割を考察した。ナイジェリアの Adeyemo は中学生以上の学生における心の知能指数 (EQ) が成功裡に移行する能力に及ぼす影響を考察した。米国での研究では、正式に就学する以前に、子どもたちの学びや正規の学校教育で学ぶ準備を整えられるようにするための豊かな体験を与えるようにするためには、家族やコミュニティ (特に貧困層で) に対してどのような対策が必要かを考察している (Mayer, Amendum, & Vernon-Feagans, 2010)。日本では Yaeda (2010) が、障害を持つ人々に対する、中学校に入学する 3 年前から中学卒業から 3 年後まで続く体系的で計画的な移行プログラムに注目している。これらすべての協力者やその他の研究者らの研究が、動機や自尊心、成果の維持の仕方について豊富な知識の集積となっている。これらの要因は継続率を上げ、また世界中の学生実践や就学率の向上に役に立つと期待される。

さらに移行支援という点で見れば、米国やフィンランドなどの数カ国では、個人の発達段階と事情の中でのニーズに合わせた教育システムやカリキュラム採用した (Vernon-Feagans, Odom, Panscofar, & Kainz, 2008)。ニュージーランドは適性に移行して学習者ごとに異なる得意分野を褒めそれを基礎に学習を進める

機会を与えるようにしている。同様に、例えばスコットランドでは、2006年スコットランド学校（両親の関与）法（2006年スコットランド政府）を通して子どもの教育と学校生活への親の関与が重要視されている。言うまでもなく互いの教育政策を見ることで、自分の国の状況ではどのように適用可能かを考えることができる。

EFAという目標に関連するもう一つの例は、就学の準備状況に関連したものである。何歳が最善の就学年齢かという点に関して、長きにわたって議論が行われてきた。これまでの研究では、年齢が就学の準備ができていのかどうかの判断基準として妥当かどうかについて結論を出すまでに至っていない (Ford & Gledhill, 2002; Stipek, 2002)。他方、関心の的は社会的・感情的な準備に加え、学習する準備ができていのかどうかに移っているようだ。この準備が子ども自身の準備なのか、あるいは学校のそれぞれの子どもの独自の特徴を認め長所を伸ばして全ての子どもの教育を行える準備なのかという点について、あまりにも広範囲な論議が行われてきた (Hannah, Gorton, & Jindal-Snape, 2010 参照)。Mayer ら (2010 年) は、準備は子どものレベルを超えてコミュニティ、学校さらに家族の準備であり、またこの準備状況は子どもとその家族と、学校の子どもの教育する準備の相互作用と調和であると提唱している。研究している国にかかわらず、研究者らはスムーズな段階以降は就学以前の経験のクオリティに依存するという点を強調している。したがって、すべての子どもが正式な就学前学校システムもしくは協力的な家庭やコミュニティを通して良質な就学前準備を得られるようにすることが重要となる。Hannah et al. (2010) は、親を子どもの教育や移行の過程に関与させることの重要性を強調している。上記の例から、その発達段階に関わらずすべての国で、教育システムを子どもたちのために修正し、EFA の目標を達成するために何らかの対策が求められていることは明らかである。

また別の場合、協力はキャパシティビルディングという形の教育援助に見ることができる。これは例えば教育プログラムを通じたものである。いくつかの国では、戦争のためにすべての世代が教育を受けられなかった場合もある。例を上げると、我々はエリトリアの Continuous Professional Development (CPD) プログラムで協力を行ったことがある。これは豊富な経験を持つシニア医療マネージャが、資格を取ることができるようにするためのプログラムである。これはさまざまな学習アプローチを混ぜ合わせて行われた。すなわち遠隔教育、ICT ベースの支援（ただし、これは適当なリソースが不足していたため最低限になってしまった）、および国内の訪問などである。我々は指導員としてエリトリアの医療について多くを学び、社会すべてのメンバーの利益のために働くことへの献身を学んだ。彼らは我々から研究・考察・管理のスキルを学んだ。

したがって、筆者は共同研究、CPD、相互訪問などによる知識交換は、国際的な教育協力と支援において重要な役割を果たすと主張したい。

### リソースの形による国際協力援助

このセクションで、筆者は他の形の国際援助について簡単に議論する。例えば国家レベルでは、2006年4月イギリス政府が発展途上国の教育支援のために10年間で85億ポンドを支出することを決定した (DFID, n.d.)。さらに国際開発省は、EFA 目標とミレニアム開発目標 (MDGs) の達成に向けて国際援助を提供する取り組みを強化した。

人々は、EFA への取り組みを、キャンペーンを通して表明してきた。キャンペーンには世界の指導者や有名人から一般の人々までが参加している。このようなキャンペーンの例としては、フットボールの “Class of 2015” キャンペーン、“1 Goal: Education for All” の開始が挙げられる。このキャンペーンでは、スポーツ選手などの有名人がイングランドのウェンブリースタジアムに集まった。

(<http://www.join1goal.org/en/about-us>).

これに加えて、さまざまな国で本や家具、黒板などを提供したり、ボランティアを教師として送りこむ活動しているボランティア組織もある。例えばノッティンガム大学の学生が2004年から組織しているチャリティー団体 READ International は、英国中に20件の本プロジェクトを運営しており、スポーツ用品、科学用品、文具とともに、約50万冊の本を東アフリカの国々に送った (<http://www.readinternational.org.uk/>)。

見ての通り、これらの目標を達成する責任は政府にのみあるわけではない。さまざまな暮らしをしているすべての個人が、それぞれのやり方でこれを支援しているのである。心に留めておくべき重要な点は、このような活動が相互の利益になるということである。歩くには資源の入手という利益を得るかもしれないが、もう一方は世界に対する意識の高まりという利益を得ているのである。

## 優先課題

先進国か途上国かに関わらず、EFAは重要な目標である。我々はみなそれに全力で取り組んでいる。しかし、特に自国内でこの目標に取り組む理由は異なっているかもしれない。優先順位は地域レベルで決定されるべきであるかもしれないし、各地域で異なることだろう。しかしその全てにおいて成功への前提条件は、あらゆる国が協力して、互いに学ぶことである。問題の具体的性質は異なるかもしれないが、解決法は類似しているかもしれない。例えば同じ継続率の低さでも、先進国ではモチベーションの低さが、発展途上国では貧困の影響が原因となっているかもしれない。しかし、解決方法は同じである可能性もある。例えば親を自分の子どもの教育に参加させる、あるいはこれら子どもたちのニーズに合った、動機づけができるような学習環境を作るなどが考えられる。

この目標の達成には、まだまだ長い道のりであるということは分かっている。筆者にとっての優先順位は、2015年になっても我々が現在の勢いを失ったり、あるいは達成できなかったことに落胆しないようにすることだ。したがって現在進行中の国際教育援助は重要な努力となるべきであり、EFAの達成に向けた世界的な優先課題とするべきである。そしてこれは2015年に終わり得るものではなく、また終えるべきでもない取り組みだ。

## References

- Adeyemo, D.A. (2007). Moderating influence of emotional intelligence on the link between academic self-efficacy and achievement of university students. *Psychology and Developing Society*, 19(2), 199-213.
- Akos, P. (2004). Advice and student agency in the transition to middle school. *Research in Middle Level Education*, 27, 1-11.
- DFID (n.d.). *Education in-depth*. Retrieved on 10th December 2009 from <http://www.dfid.gov.uk/global-issues/how-we-fight-poverty/education/>.
- Dockett, S., & Perry, B. (2001). Starting School: Effective Transitions. *Early Childhood Research and Practice*. Volume 3 Number 2. Retrieved on 16th September 2008 from <http://ecrp.uiuc.edu/v3n2/dockett.html>.
- Eccles, J. S., Wigfield, A., Midgley, C., Reuman, D., Mac Iver, D., & Feldlaufer, J. (1993). Negative effects of traditional middle schools on students' motivation. *The Elementary School Journal*, 93, 1553-574.
- Ford, J., & Gledhill, T. (2002). Does season of birth matter? The relationship between age within the school year (season of birth) and educational difficulties among a representative general population of children

and adolescents (aged 5-15) in Great Britain *Research in Education*, 68, 41-47.

Jindal-Snape, D., & Foggie, J. (2008). A holistic approach to primary-secondary transitions. *Improving Schools*, 11, 5-18.

Jindal-Snape, D., & Miller, D.J. (2010). Understanding Transitions through Self-Esteem and Resilience. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world*. New York: Routledge.

Mayer, K.L., Amendum, S.J., & Vernon-Feagans, L. (2010). The Transition to Formal Schooling and Children's Early Literacy Development in the Context of the USA. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world*. New York: Routledge.

Scottish Government (2006). *Scottish schools (parental involvement) Act 2006 asp8*. Retrieved on 13th March 2009 from [http://www.opsi.gov.uk/legislation/scotland/acts2006/pdf/asp\\_20060008\\_en.pdf](http://www.opsi.gov.uk/legislation/scotland/acts2006/pdf/asp_20060008_en.pdf)

Stipek, D. (2002). At what age should children enter kindergarten? A question for policy makers and parents [electronic version]. *Society for Research in Child Development Social Policy Report*, 16(2), 3-17.

Vernon-Feagans, L., Odom, E., Panscofar, N., & Kainz, K. (2008). Comments on Farkas and Hibel: A transactional/ecological model of readiness and inequality. In A. Booth & A. C. Crouter (Eds.), *Disparities in school readiness* (pp. 61-78). New York: Lawrence Erlbaum Associates.



## 国際教育協力日本フォーラム 2015年まで残り5年の課題－何を優先すべきか

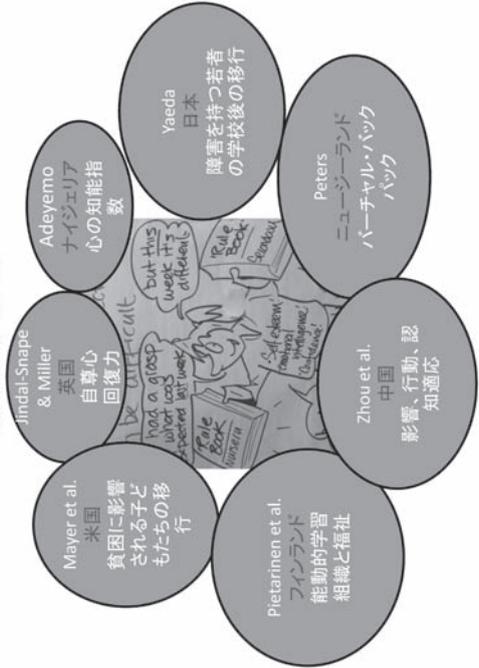
デヴィヤ・ジन्दル・スネイブ博士  
ダンディー大学  
教育・ソーシャルワーク・コミュニティ教育開発部



## 概要

- 知識交換の形による国際教育援助
- リソースの形による国際協力援助
- 優先課題

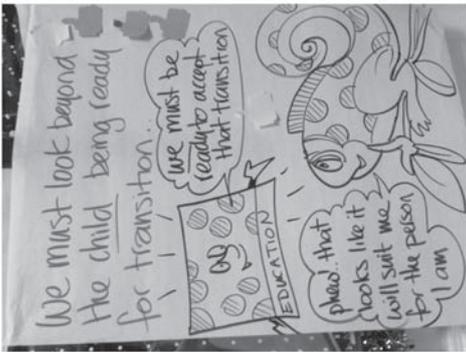
## 知識交換の例 教育の移行



## 知識交換の例 教育の変遷

- 研究および実践より新たな発見
  - 全世界における実践および政策の変化

## 知識交換の例 子どもの準備/教育機関の準備



- 成熟 v/s インターアクション  
ストアプローチ
- Vernon-Feagans and colleagues (2008) は準備ができていないことの定義を子ども自身ではなく、「子どもと家族の交流と適合性および子どもを教える教室/学校が準備できているか」に置いた概念を提供した。(p. 63).

## 知識交換の例 継続的な専門能力開発(CPD) プログラム



## リソースによる国際教育援助の例

万人のための無償教育が45億ドルの公約によって推進される

2008年9月25日

政府が万人のための教育の実現のため15億ドルの支出を公表

2006年4月10日

イギリスとフランスがアフリカへの教育援助の約束を果たす

2005年2月7日

<http://www.dfid.gov.uk/Media-Room/Press-releases/?q=education+for+all>

## リソースによる国際教育援助の例



<http://www.youtube.com/watch?v=aCs5vwrV5EM>

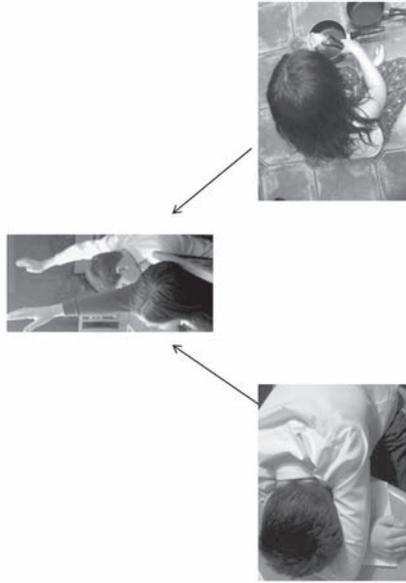
## リソースによる国際教育援助の例



<http://www.readinternational.org.uk/>

## 優先事項

異なる理由-類似の問題なのか?  
同じ目的なのか?



## 優先事項 国際協力



## ペースは落とせない!! Gambarimashou!!

- 我々がすでに達成した結果を集約する
- 2015年になっただからといって勢いを失ったり、目標を達成できなかつたことで落胆しないこと
- 現在行われている国際教育援助は「万人のための大きな義務で国際的な優先事項であり、2015年で止まることも止めることもしてはいけません!!」



## 参考文献

- Adeyemo, D.A. (2010). Educational Transition and Emotional Intelligence. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world* (pp. 33–47). New York: Routledge.
- Jindal-Snape, D., & Miller, D.J. (2010). Understanding Transitions through Self-Esteem and Resilience. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world* (pp. 11–32). New York: Routledge.
- Mayer, K.L., Amendium, S.J., & Vernon-Feagans, L. (2010). The Transition to Formal Schooling and Children's Early Literacy Development in the Context of the USA. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world* (pp. 85–103). New York: Routledge.
- Peters, S. (2010). Shifting the Lens: Re-Framing the View of Learners and Learning During the Transition From Early Childhood Education to School in New Zealand. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world* (pp. 68–84). New York: Routledge.
- Pietarinen, J., Soini, T., & Pyhalto, Y.K. (2010). Learning and Well-Being in Transitions: How to Promote Pupils' Active Learning Agency? In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world* (pp. 143–158). New York: Routledge.
- Vernon-Feagans, L., Odom, E., Panscofar, N., & Kainz, K. (2008). Comments on Farkas and Hibel: A transactional/ecological model of readiness and inequality. In A. Booth & A. C. Crouter (Eds.), *Disparities in school readiness* (pp. 61–78). New York: Lawrence Erlbaum Associates.
- Yaeda, J. (2010). Transition From Secondary School to Employment in Japan for Students With Disabilities. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational Transitions: Moving Stories from around the world* (pp. 205–220). New York: Routledge.
- Zhou, Y., Tedman, J., Topping, K., & Jindal-Snape, D. (2010). Cultural and pedagogical adaptation during transition from China to a UK University. In D. Jindal-Snape (Ed.), *Educational transitions: Moving stories from around the world* (pp. 186–204). London & New York: Routledge.

## 連絡先

Dr Divya Jindal-Snape  
School of Education, Social Work and Community Education  
University of Dundee  
Nethergate  
Dundee DD1 4HN  
Scotland

電話: +44(0) 1382 381472  
e-mail [d.jindalsnape@dundee.ac.uk](mailto:d.jindalsnape@dundee.ac.uk)

<http://www.dundee.ac.uk/eswce/staff/djindalsnape.php>